

富士通グループのトランストロン（本社・横浜市、大岡信二社長）は、新型のネットワーク型デジタルタコグラフ（運行記録計）で利用できる「ITP・Web Service V2」の機能を充実させている。

七月二十五日、「DTS・D1」シリーズと連携する外部接続機器を拡充。ドライバーの眠気状態や冷凍機の温度情報を、事務所に居ながらにして常時管理することが可能に。顧客の声を



富士通が開発した眠気検知システム「FUEELythm」

トランストロン

基に細かな機能も追加し、ユーザーの安全と輸送品質向上を支援する。

同社のネットワーク型デジタルタコは、ドライバーの運転状況をリアルタイムに管理できる特長を持つ。昨年発売のDTS・D1シリーズは運行管理機能をより使

ット端末で必要な時に必要な情報をどこからでも取得できるようなことになり、確認できるようになった。

独自のアルゴリズム（分析手法）で解析。本人も気付かない予兆段階の眠気まで感知し、異常があればドライバー、営業所の運行管理者にも即座に通知する。通知の頻度が多ければ休憩指

耳に装着したセンサーから取得した脈拍情報を富士通独自のアルゴリズム（分析手法）で解析。本人も気付かない予兆段階の眠気まで感知し、異常があればドライバー、営業所の運行管理者にも即座に通知する。通知の頻度が多ければ休憩指

示などを出し事故防止に役立てられる。またセンサー、菱重コー

外部機器との連携拡充

DTS・D1シリーズで

いやすくするとともに、安全を支援する機能を拡充。中でもドライブレコーダー機能強化し、取得動画を手軽に点呼、安全教育に活用できる仕組みを整えた。

眠気、温度情報 報を常時管理

七月下旬に連携を始めた外部接続機器の一つが、富士通製眠気検知システム「FUEELythm（ファイリスム）」。

新機種に合わせ、クラウド型運行支援サービスも刷新。完全ウェブ化でタブレ

またデンソー、菱重コー

ルドチェーン、東プレの冷凍機コントロールパネルとも連携。一般的な保冷車

は、運転席周りの専用パネルで荷室内の温度情報を管理できるが、営業所からの

管理はできなかった。新サービスは、コントロールパネルと車載器をケーブルでつなぎ、温度情報を車載器で取得することにより常時計測できる。事前に設定した荷室温度に異常があればドライバーと営業所に伝え、徹底した品質管理をサポートする。従来は温度情報を取得するためにケーブルとセンサーを荷室まで配線する必要があったが、不要になり簡単に導入できるようになる。

顧客の声反映した機能追加

このほか、顧客の声を反映した細かな機能の追加も。ウインカーとバックギア連動により、ドライバーが安全確認をせずに走り出

すと、車載器が即座に警告を出す。またドライコで撮影してクラウドに保存した画像もワンクリックで全共有し、営業所間でヒヤリハット画像などを確認できるようにした。携帯アルコール検知器の測定結果を、パソコンの動態画面でより簡単に確認することも可能になった。

サービス利用料はドライコを搭載したDTS・D1の場合、運行管理、動態管理、Q&Aを含め一車両当たり月額二千六百九十円（税別）。外部機器の購入、連携ケーブル、取り付け工賃などは別途費用がかかる。問い合わせ先はトランストロン情報機器営業部、電話045（476）464（小林 孝博）